

## 中国国家図書館電子文献提供サービスの現状と計画

中国国家図書館業務処副処長  
劉 康寧

当日は、張志清主任の発表とあわせて 1 つにし、「中国国家図書館電子文献提供サービスとデジタル化資源の構築の現状と計画」と題して劉副処長が発表した。

中国国家図書館の電子文献提供サービスは 1987 年から始まった。当時は紫竹院公園の北に建てられた新館が竣工したばかりだった。国際オンライン情報検索を採用するか、あるいは CD-ROM データベースを購入するかについて、館内で調査研究を行なった結果、後者になった。その理由としては、前者は費用が非常に高く、またその内容をローカル端末に保存できないのに対して、後者は出現したばかりの方法で、潜在力が大きいということがあげられる。ここから当館の電子文献サービス提供が始まった。十数年の経験を経て、現在、当館の電子情報サービスセンターは全国で最大の電子資料のセンターとなり、所蔵文献の数量も全国最多である。

### 一、電子文献の購入経費について

当館の電子文献購入経費は、電子文献の種類が増加と国家財政により給付される資料購入費の増加に従って次第に増えてきた。1987 年は十数万元だったが、2002 年になると 550 万元に達し、総資料購入費の 5% を占めるようになった。電子文献には納本されるものもあるが、主として購入により収集されている。その手順は以下の通りである。まず、司書がインターネットを通じて関係情報を把握する(利用者や、販売会社の推薦によることもある)。次に館内で試用し、館内外の専門家の意見により購入するかどうかを決定する。購入が決まると、業務管理部門が主管館長に報告、許可を得てから所定の手続きを行って購入する。インストール後、職員の研修をし、利用者への提供サービス・利用支援サービスを実施する。

### 二、所蔵の電子文献について

大型の中国語、欧文 CD-ROM データベースが当館電子文献の重点である。現在、国内外の CD-ROM データベース約 70 種を収集しており、著名なものも含まれている。例えば『ケ

ミカル・アブストラクト』(CA)、『エンジニアリング・インデックス』(EI)、『サイエンス・サイテーション・インデックス』(SCI)、『国際電気電子学会全文データベース』(IEEE/IEE)、『バイオロジカル・アブストラクト』(BA)などである。また、電子ジャーナル約1万種と、中国語、外国語のマルチメディア CD-ROM を 6,886 種、9,951 枚所蔵している。その内容は政治、経済、軍事、文化教育、スポーツ、芸術、歴史、地理、人物、生物学、医学、コンピュータ、建築、材料科学、食品科学等、幅広い分野に及んでいる。内容の豊富さ、分野の十全性で、異なるレベル、年齢の利用者層に満足いただいている。

### 三、電子文献閲覧室の開設

当館の電子文献閲覧サービスの発展は二つの段階に分けられる。第一段階は 1987 年から 1994 年までで、当時、逐次刊行物検索用 CD-ROM データベースが当館の電子文献の主体であった。印刷版の逐次刊行物と共に文献検索室に設置し、利用者が自由に使うことができた。

第二段階は 1995 年以降現在までである。電子出版物の種類と数量の増加に伴い、1995 年に専門的に電子文献サービスを提供する部門を設置、電子閲覧室を開設した。検索用逐次刊行物 CD-ROM データベースを文献検索室から分離し、オンライン・データベース、電子出版物等と共に集中管理することになった。1997 年には利用者のインターネット検索へのニーズに対応し、第二電子閲覧室を増設した。利用者のニーズによって調整を行い、現在、当館では、本館の第一閲覧室 62 台、第二閲覧室 30 台、分館の電子閲覧室に 25 台の端末を設け、インターネット検索、データベース検索を提供している。今年の 1 月から 9 月までの利用者数は延べ 78,471 人に達した。

### 四、電子文献提供サービスの方式

コンピュータ技術の発展に応じて、当館では四つのサービス方式を採用してきた。

1. スタンド・アローン方式による提供。利用者は端末内蔵の、あるいは外付けの CD-ROM ドライブに CD-ROM を入れて検索する。例えば IEEE/IEE の全文データベースはスタンド・アローンでのみ提供している。

2. ネットワーク CD タワーによる提供。利用者は使用ライセンスにより、大量のデータ含んだ複数の CD-ROM を同時に検索することができる。CD タワーは各部門の LAN と WAN に接続され、簡単な設定によりネットワーク検索ができるが、検索スピードが遅く、駆動装置も壊れやすいことから、当館ではすでにこの方式は中止している。

3. ディスクパックによる提供。ディスクパックによるサービスはさらにハードウェアサービスとソフトウェアサービスの 2 種に分かれる。購入した一部の CD-ROM データベースを

ディスクパックに保存し、容量が大きい、反応が速い、データも回復させやすいなどの特徴を活用してネットワークサービスを提供しており、利用者にも歓迎されている。

4. SAN (Storage Area Network) による提供。当館が作成したデジタル化資源を当館の2.5TのSAN設備を利用して提供している。ビデオ・オン・デマンド、ネットワーク閲覧等のサービスがある。

## 五、電子文献提供サービスの問題点

1. 電子文献の利用率の低さ。原因の一つには収集にあたっている職員の業務能力が低く、データベースの内容と品質に対する評価力が低いことがあげられる。二つ目は一部のデータベースでは内容が重複しており、検索方式はそれぞれ異なっているので、利用者が使い方を把握しにくいこと。三つ目は所蔵の電子文献についての広報が不十分で、大部分の利用者は当館でどのような電子文献を所蔵しているのかわからない。特にオンライン・データベースについては不十分である。

2. 職員のサービス水準の低さ。職員は当館が収蔵している電子文献の内容、操作法、各データベースの相互関係に対する理解が不十分で、利用者が電子文献をうまく利用できるように導くことができないでいる。

## 六、今後の計画

1. 電子文献収集の強化を図る。今までに所蔵しているデータベース資源の利用状況を分析し、利用者のニーズに基づいて、当館の電子文献の発展計画を作成する。新しく出版され、未購入の電子文献の探索、識別、評価と選択に力点を置き、継続的に新規電子文献を増やしていくことで当館の電子文献が所蔵資料に占める割合を増加させようとしている。計画的に無料ネットワーク資源の収集もしなければならない。当館ではすでにSAN (Storage Area Network) を構築しており、無料ネットワーク資源を収集する条件も備えている。所蔵資料に対する十分な理解の基礎の上に専門的領域を確定し、資金と人員を投入してネットワーク資源を収集し、収集した資源を統合して、所蔵資料の一部として保存する予定である。このようにして科学的かつ合理的、実用的な電子資料コレクションを構築していきたい。

2. 電子文献の利用率を高める。お知らせを配布する、利用者教育を行なう、ホームページを利用する等、さまざまなルートで広報し、当館が収蔵する電子文献の内容や利用法を紹介、利用者に対して当館所蔵の電子文献を用いてどのような専門的情報が入手できるかを

理解してもらおう。利用者の電子文献利用の典型例を分析し、電子文献を利用することの便  
利さ、迅速さを実感してもらおう。また、当館が重点を置いてサービスしている科学技術研  
究機構、教育機構、企業等には、その研究方向や情報に対するニーズを把握し、電子文献  
の遠隔利用サービスを提供し、電子文献の利用率を高める努力をしていきたい。

3．恒常的な利用者支援の実施。電子文献の種類が増加は利用者に新しい困惑をもたらして  
いる。各利用者層のそれぞれのニーズに対し、恒常的な利用者支援を行なう。利用者にデ  
ータベースの選び方、利用法、データベースの内容と検索インターフェイスを理解してもら  
い、より有効に検索するにはどの方法を取ったらよいか、エラーを出さないようにする  
にはどうしたらよいかを学んでもらう。継続的な研修により、利用者の電子文献に対する  
認識と利用能力が高まり、ネットワーク上のツールを上手に使えるようになり、電子文献  
を使用することへのためらいや恐れがなくなり、新時代の図書館を活用する達人になって  
ほしいのである。

4．職員が提供するサービスを改善する。当館が所蔵する電子文献はすでに 1TB に達して  
いるが、データベースによって、その内容、言語、検索用ソフト、検索方式が異なってい  
る。そのため、職員のサービスの質・量を高め、それぞれのデータベースの内容、使用法、  
検索法などを身に付けるほか、利用者に対しその使い方を教え、問題解決の補助ができる  
能力を養わなければならない。電子文献サービスにあたる職員の研修を強化し、業務の恒  
常化をはかり、計画的に実施し、また常に見直しを図っていかなければならない。職員は  
複合的な資質を備え、文献情報管理とレファレンスサービスの専門的知識と技術を備えた  
上、さらに各分野の知識、現代情報科学技術に対する十分な理解があって、はじめて利用  
者に質・量ともに高度な情報サービスを提供できるのである。